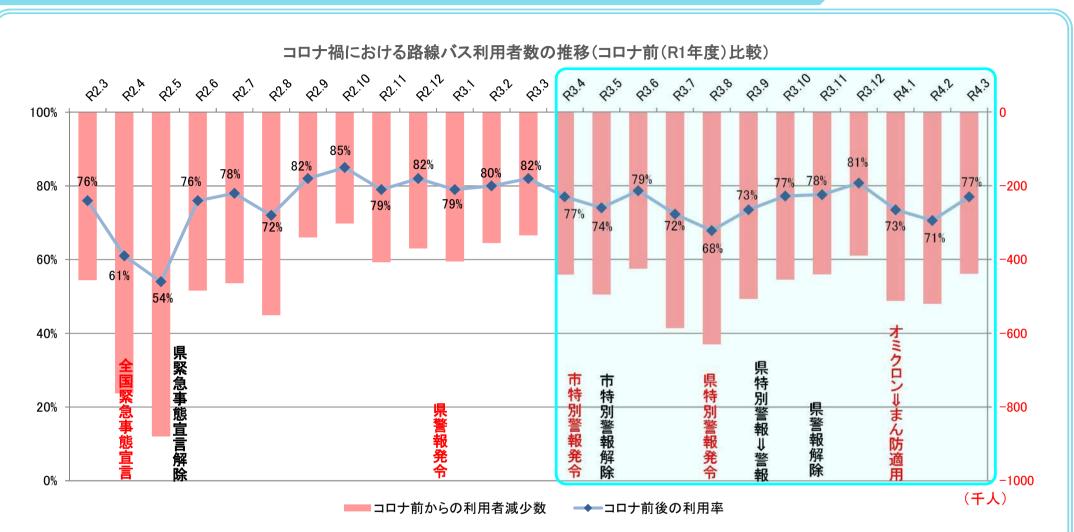
# 2021年度 公共交通の確保維持に向けた取り組み



(1) コロナ禍における公共交通利用者数

# コロナ禍における公共交通利用者数【路線バス】



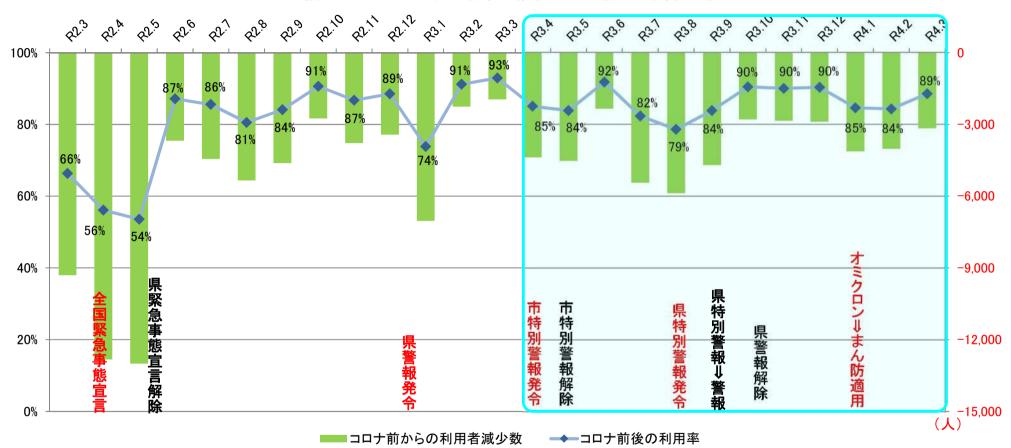


- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で77%に減少(約23百万人⇒約18百万人)
- ・月別ではコロナ前後比で70%~80%程度で未だコロナ禍前の水準に戻っていない
- ※ 路線バスは新潟交通(株)が運行する路線バスの利用者数(新潟交通㈱HPより)
- ※ 路線バスの利用者数には、佐渡汽船線、空港リムジンバス線、免許センター線、観光循環線、イベント臨時バスは含まない

# コロナ禍における公共交通利用者数【区バス】



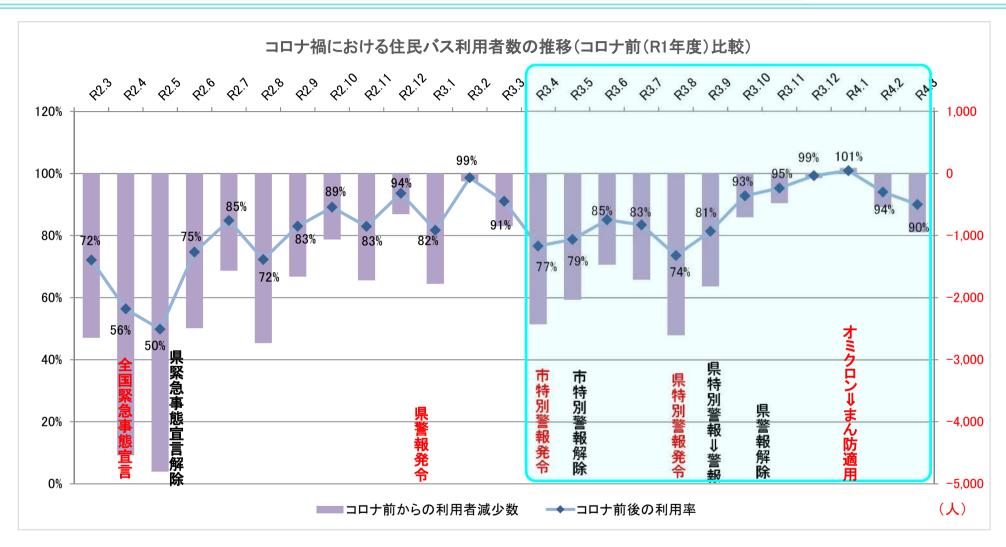




- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で89%に減少(約332千人⇒294千人)
- ・月別ではコロナ前後比で80%~90%程度で路線バスと比べて回復割合が大きい
- ※ 路線バス延伸型のバス利用者数は半年ごとに集計され、比較条件を揃えるため便宜的に利用者数に計上していない

# コロナ禍における公共交通利用者数【住民バス】

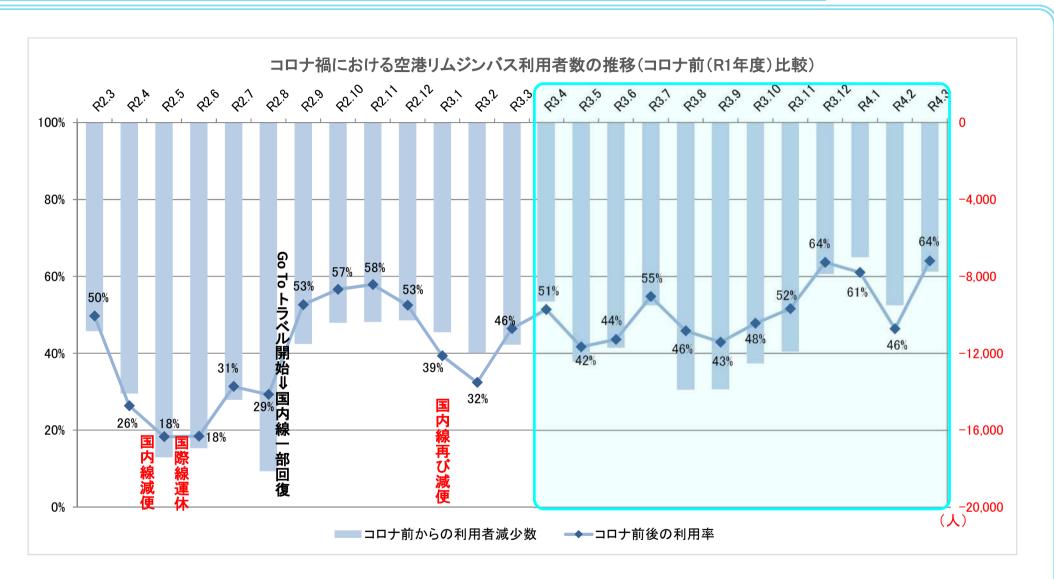




- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で90%に減少(約116千人⇒104千人)
- ・月別ではコロナ前後比で70%~100%で、R4年1月にはコロナ前の利用者数まで増加
- ※ 路線バス延伸型のバス利用者数は半年ごとに集計され、比較条件を揃えるため便宜的に利用者数に計上していない

# コロナ禍における公共交通利用者数【空港リムジンバス】

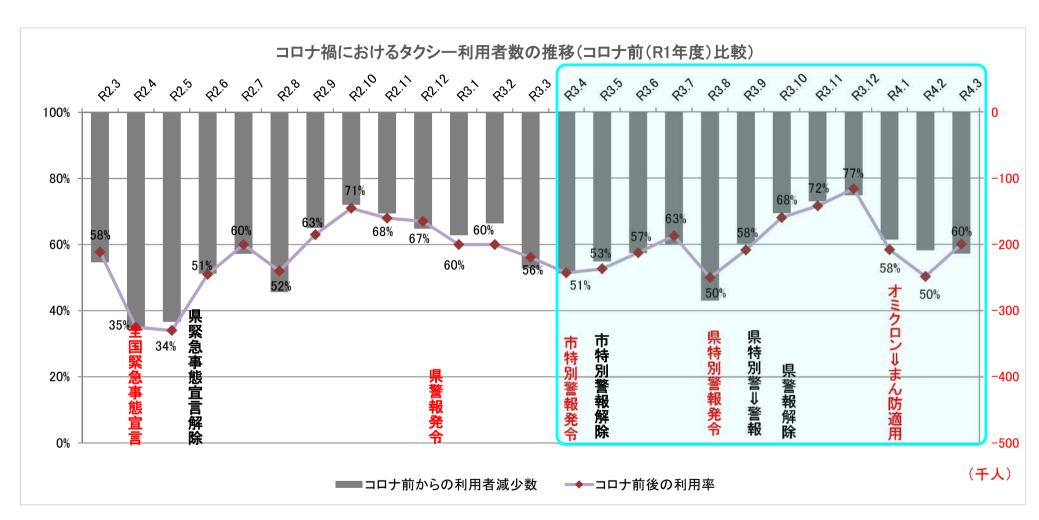




- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で53%に減少(約249千人⇒約132千人)
- ・月別ではコロナ前後比で40%~60%程度で未だ回復傾向までに至っていない

# コロナ禍における公共交通利用者数【タクシー】





- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で62%に減少(約5.8百万人⇒約3.6百万人)
- ・月別ではコロナ前後比で50%~80%程度で、未だコロナ禍前の水準には戻っていない

<sup>※</sup> タクシー利用者数は、新潟市ハイヤータクシー協会からの情報提供(協会員22社における利用者数)個人タクシーは含まれない

# コロナ禍における公共交通利用者数



- ・本市ではR2年2月末に新型コロナウイルス感染が初めて確認されて以降、緊急事態宣言(4月16日全国対象)に伴う外出自粛等により、公共交通利用者が大幅に減少。
- ・路線バスの利用者数においては、R2年度と比較して傾向に大きな変化はなく、コロナ前のR1年度と比較すると77%であり、未だコロナ前の水準まで回復する見通しが立たない状況。
- ・区バス・住民バスの利用者数においては、路線バスと同様の傾向がみられるが、回復割合は約10%大きく、コロナ前のR1年度と比較して区バスが89%、住民バスが90%であった。
- ・回復割合が高い理由として、通学・通勤・通院などを目的とした利用が多く、代替の交通手段がないことが要因であると推測される。
- ・空港リムジンバスの利用者数は、路線バスや区バス・住民バスと比較して最も回復割合が小さく、コロナ前のR1年度と比較して53%であった。
- ・これはコロナ前と比較した航空機の運行回復状況(国内線:6割、国際線:全便運休)と相関性の高い数値となっており、航空機の便数回復に伴う利用者数の回復が期待される。
- ・タクシー利用者数においては、バス利用者と同様の傾向がみられたが、その落ち込み度合はさらに深刻であり、コロナ前のR1年度と比較して62.3%であった。
- ・ハイヤータクシー協会では、深夜帯(22:00~5:00)の利用者とビジネス出張者を中心とした 新潟駅から乗車する利用者の回復が低調であることが要因であると推測される。

8

(2) R3年度の主な取り組みについて

# 【1. 都心アクセスの強化】(仮称)上所駅整備事業



新潟都市圏パーソントリップ調査において提案された上所地区の新駅について、周辺開発の動きや地域からの要望を踏まえ、平成30年2月にJRと連携協定を結び、JRの協力を得て新駅設置に向けた検討を進める。

## R3年度取り組み

- ・(仮称)上所駅周辺施設の地元との意見交換会を実施
- ·JRによる駅舎の概略設計を完了

#### 事業規模

	地平駅(無人駅)	イメージ図
利用者数	約2,300人	エレベーター 既存地下通路 一月 横橋
ホーム	2面2線相対式	至
乗換え施設	自由通路 (既存地下道)	中山 本一人 一一
駅前広場	検討中	

#### 【参考:R4年度事業】

- ·JRによる駅舎の詳細設計
- ・(仮称)上所駅周辺施設の基本設計



(仮称)上所駅イメージパース(北側)

# 【1. 都心アクセスの強化】パークアンドライド社会実験



JR巻駅、新津駅においてパークアンドライド社会実験を継続実施

# 

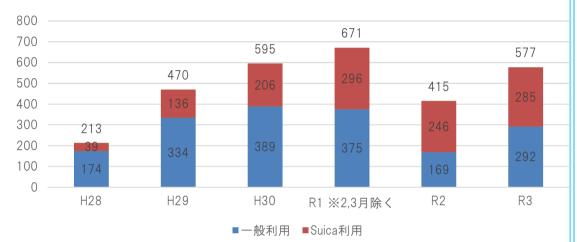
巻駅パークアンドライド実施中!



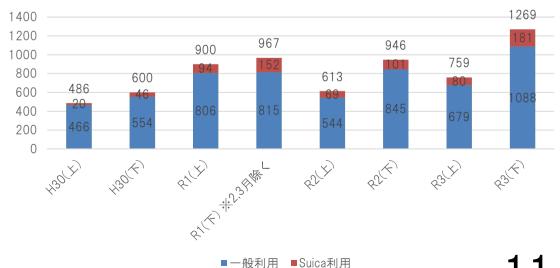


巻駅P&R 新津駅P&R

#### JR巻駅 年度別月平均利用者数



#### JR新津駅 年度別(上·下半期別)月平均利用者数



# 【2. 広域交通との連携強化】空港リムジンバスの運行

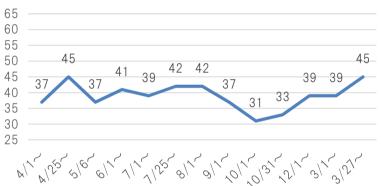


新潟空港の拠点性強化と魅力の向上を目指し、新潟駅と新潟空港間を結ぶ空港リムジンバスの運行を継続的に実施(運行は新潟株式会社)



- ·R3年度の利用者数の合計はコロナ前後比で53.2%に減少
- ・航空機の運航状況に合わせ、ダイヤ改正を継続的に行いながら、 空港アクセス路線を確保維持







空港リムジンバス

# 【3. 都心部での移動円滑化】バス待ち環境の整備



3か年計画(R2~R4) でバス待ち環境の集中改善に取り組んでいる。R3年度は下記の改善を実施

## 乗換負担の軽減・バス待ち環境の充実



待合室モニタ設置 令和3年4月



新潟日報メディアシップ バス停上屋増設 令和3年11月



青山結節点上屋改良 令和3年12月



青山結節点バス待合室 令和4年1月

## 情報案内機器整備



新潟日報メディアシップ内 情報案内機器整備 令和3年4月



明石一丁目バス停 情報案内機器整備 令和3年12月

## 交通バリアフリー



索可能に ・障がい者対応として、文字読み上げや

・区バス、住民バス、観光循環バスも検

拡大、文字色と背景色の色反転等に 対応

(英語、中国語、韓国語)

•多言語対応

バス乗換案内サイト機能拡充 令和3年1月、10月,令和4年3月

# 【3. 都心部での移動円滑化】シェアサイクルの導入検討



まちなかにおける多様な移動手段を確保し、移動利便性や回遊性の向上を図るため、スマートフォンを活用した無人管理型のシェアサイクル導入を検討(令和4年度に事業化)

## 【令和4年度事業】

にいがた2kmシェアサイクル



①運営事業者(協定締結者) にいがたシェアバイク共同体

②事業規模

導入台数:150台(電動アシスト付き)

整備ポート数:30力所程度

③利用料金

1 回利用:165円/30分(日当たり上限額2,200円)

月額会員:2,200円/月(最初の30分0円、

以降165円/30分)

ほか法人会員





にいがた2kmシェアサイクル

事業開始 R4年9月1日~ アプリ登録者数 2,470人 ※R4.9.20時点 (事業開始後の増加数 1,243人)

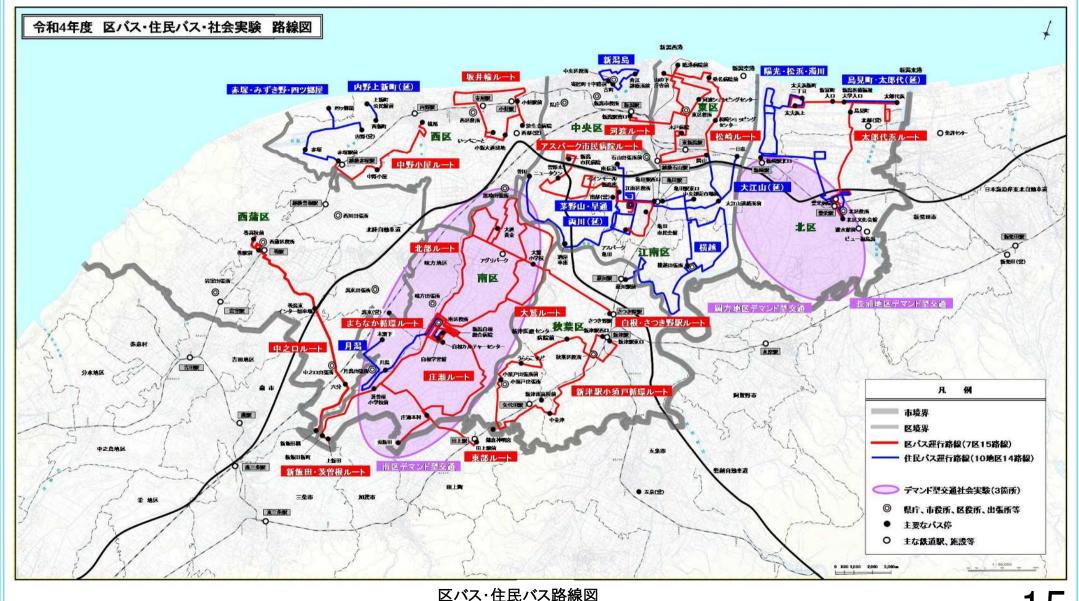


シェアサイクルポートマップ

## 【4. 生活交通の確保維持・強化】区バスの運行・住民バスの運行支援



区バス:7区15ルート運行、住民バス:10地区14路線の運行を支援



# 【4. 生活交通の確保維持・強化】区バス車両感染対策



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、既存区バス車両にバス専用電動換気扇を架装するほか、入替予定となっていた車両について、開閉可能な窓や換気扇を装備した小型ノンステップバス車両へ入替え、安心して区バスを利用できる環境整備を実施した。これにより、区バスにおけるすべての小型バス車両のノンステップ化(バリアフリー化)が完了した。

#### 取組実績

項 目	内容
区バスへの	東区2台
小型ノンステップバス車両導入	江南区1台
(R3.10月導入)	計3台
	江南区1台
既存の小型ノンステップバス車両へ	南区2台
の車内換気扇の架装	西区2台
(R3.6月導入)	西蒲区1台
	計6台



小型ノンステップバス車両

バス専用電動換気扇 イメージ

## 【4. 生活交通の確保維持・強化】高齢者おでかけ促進事業「シニア半わり」

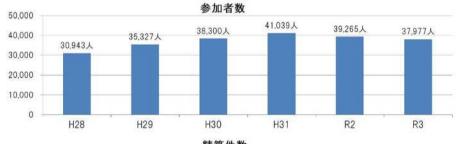


ICカードを利用した「シニア半わり」と、紙券方式の「シルバーチケット」を継続実施

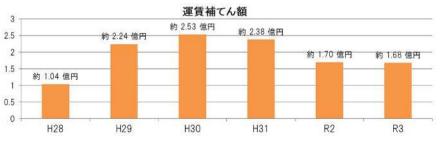


#### R3年度実績

	R3.3月末	R4.3月末	増減
シニア半わり参加者数(A)	38,964人	37,569人	-1,395人
シルバーチケット参加者数(B)	301人	408人	+107人
参加者数合計(C)	39,265人	37,977人	-1,288人
65歳以上人口(D)	233,181人	234,416人	+1,235人
参加率(C/D)	16.8 %	16.2 %	-0.6%







年度別推移

## 【4. 生活交通の確保維持・強化】バス・タクシー事業者緊急支援



新型コロナウイルス感染症の影響による公共交通利用者の減少下において、市内公共交通及び市内外への旅客輸送に努めたバス事業者やタクシー事業者へ支援を実施

## ◇支援対象者

- 市内に本社または営業所をもつ<u>乗合バス事業者</u> もしくは市内に乗降可能な停留所(高速線を除く)を複数もつ<u>乗合バス事業者</u>
- 市内に本社または営業所をもつ<u>貸切バス事業者</u>
- 市内に本社または営業所をもつ(個人事業主においては住所をおく)**タクシー事業者**

## ◇支援実績額

R2年度:68百万円 R3年度:119百万円

R3支援内容

支援対象		支援額	
	乗合バス	基本額 <u>50万円</u> 加算額 各事業者が市内の営業所に配置する事業用車両1台につき <u>10万円</u>	
TAXI	法人タクシー	基本額 <u>25万円</u> 加算額 各事業者が市内の営業所に配置する事業用車両1台につき <u>4万円</u>	
	個人タクシー	基本額 なし 加算額 各事業者が市内の営業所に配置する事業用車両1台につき <u>4万円</u>	

#### R3支援実績

	乗合バス事業者	法人タクシー事業者	個人タクシー事業者	合計
申請件数	13者	50者	340者	403者

## 【5. 市民や関係者による協働】未来に向けたバス・タクシー利用者支援





将来にわたって公共交通が確保・維持されるよう、未来の公 共交通利用者を増やすことを目的とした利用者支援を実施 支援実績

义饭夫槇			
支援項目	実績		
①R4の中学1、2年生を対象にりゅーとポイント等プレゼント(3,000円分)	4,524人 (対象者約13,445人、 引換率約33.6%) 13百万円		
②ぶらばすチケット半額補助	17,235枚 (大人17,049枚、 子ども186枚) 8.6百万円		
③タクシーチケットの配布	利用枚数453,730枚 (配布数560,000枚、 使用率約81%) 136百万円		

支援総額 158百万円

## 【5. 市民や関係者による協働】近距離モビリティWHILL社会実験



- ·R3年度は、ラストワンマイルにおける電動小型車イスの需要確認を目的として、体験乗車型の社会実験を実施。
- ·R4年度は、「エリア間の移動」と「異なるポートでの機体の返却」を可能とした体験乗車実験を実施する。
- ※実験期間:10月6日~10月31日、実施エリア:古町エリア、万代エリア



・ 実施エリア : 古町、万代島

実験期間:令和3年10月18日~11月14日

(古町エリアは毎週水曜を除く)

## 【利用者アンケートによる意見(R3年度)】

- ・万代シテイや新潟駅周辺へのエリア拡大を望む声が多数
- ・約6割の利用者が有料で運用された場合でも利用したいと回答
- ・歩道の凹凸解消など、道路空間の改善に関する意見もあり

